

思いやりの心
いたわりの心

助け合いの心
支え合いの心

【発行】福岡県退職公務員連盟 会長：稲田 瑞穂
事務局長：藤崎 嘉丈 〒826-0043 田川市大字奈良 1716-5
TEL：080-5261-3632 FAX：0947-45-3632
Mail：fukuokaken.taikouren516@gmail.com

【編集・制作】株式会社ニチコミ 福岡市博多区博多駅前3丁目9-1大賀博多駅前ビル2階 TEL.092-292-6538

福岡県退公連会長あいさつ



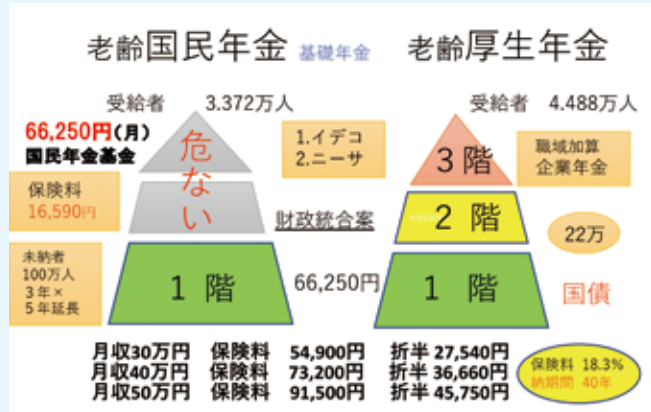
年金の現状と今後

福岡県退公連会長
稲田 瑞穂

日本の年金制度は、恩給制度から始まり、それは1875年(M8)の時からです。当時、年金をもらっていた人は、軍人だけでした。警察、消防、教師にも支給されたのは、1884年(M17)です。以来、恩給が支給されてきました。戦後も恩給は支給されましたが、その後、徐々に廃止になっていきました。

年金制度の導入は1956年(S31)、企業が最初(厚生年金)でした。国家公務員は、3年後に年金制度を導入(共済年金)しました。その3年後の1962年(S37)に、地方公務員である私たちも年金制度を採用し(共済年金)へと変更されたのです。年金制度の成立時に、保険料は、労使折半とする金額としました。保険料は、戦後当初は4%台でしたが、現在は、18.3%に引き上げられています。思い出してください。厚生年金と共済年金が一元化された時に、保険料の納入が低額であった人には、教職年数に保険料(不足分)を掛けた金額を返納するという大問題が起こりました。

現在は、年に6回、年金は遅れることもなく支給されていますが、年間54兆円と異次元の子どもへの手当は削ることはできないことです。下の図表の説明ができなくて申し訳ありません。



今こそ「熱」を持って勧誘を

福岡県退公連事務局長
藤崎 嘉丈

はじめに

日本経済においても社会保障においても、これから10年のあり様が問われている。

結論から言うと、経済が良くなることによって、年金を含め社会保障が充実します。厚労省や総務省の官僚は年金の在り方を公式には報道してませんが、色んなことを想定した戦略を立てていると思います。

団塊ジュニア世代の2040年問題をはらんだ中で、現在の福岡県の会員数を見てみたい。

会員数の問題は、30年間減少し続けている課題である。これは、失われた日本の30年間と重なっているように見える。この課題をどう打ち破るかである。

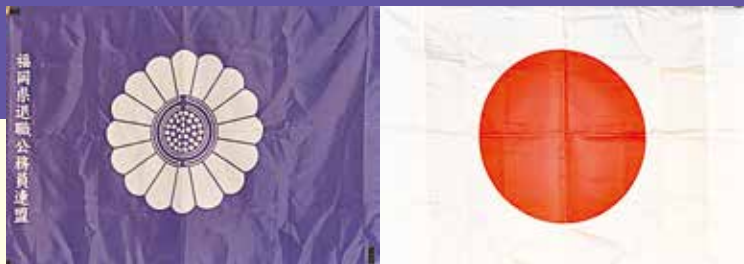
そんな時期だからこそ、私たち退公連が70年前から訴えてきた事を初心に返って70年前の「熱」を持って、電話でなく資料をもって直に勧誘をして初めて相手に伝わるのではないかと。

会員数減の大きな原因一つは、最初34支部で発足した支部が10支部も解散した事である。

そんな中で、筑紫南支部が、新規会員数を30名増やし準会員・賛助会員を加えると53名から93名になり、歴史的な、増加を示していることは、嬉しい限りである。

最後に、再度噛み締めなければならないのに、「われらの信条」第一項目にある、公務員としての矜持をどれだけ持っているか。70年前の「熱」が社会を変えていったことを。

福岡県退職公務員連盟第4回県大会 北九州ブロック大会



第4回県大会を終えて

福岡県退公連会長 稲田 瑞穂

皆さん、本当にご苦勞様でした。高木眞実行委員長様ありがとうございました。60周年を迎えた色鮮やかな若戸大橋のポスター・表紙は、見事なものでした。北九州ブロックの支部長様、発表された皆様、会場の準備をされた皆様、支部代表の皆様、県連理事の皆様、ご苦勞様でした。第2回の北九州ブロック大会は、実りある大会となり本当に嬉しく思っています。ブロック大会に期待することは、支部・個人の意見を発表する時間と大会決議文が出せる段階へと登っていきたいと思っています。



◎ひとりぼっちにしない組織へ 県退公連 副会長 藤淵 明宏

昨年の県大会は「ひとりになっても」頑張る、と述べましたが、今回の県大会では、北九州4支部の個性ある構え、および実践を知ることができて感動し、個人的に反省もしました。それは「決してひとりぼっちにしない」。何と愛溢れるテーマでしょう。自ら動いて組織を広げたり、高めたりすることが大前提なのに、私は寂しい限りのことを述べていたのです。各支部それぞれを括った言葉で表しますと「会員募集の巧みさ」「楽しい集まり」「コミュニティづくりの総会」「フィロソフィーのある支部」と私は捉えてみました。以上からも今年の県大会で、私たち退公連はより飛躍したように感じました。これが組織だ、仲間だ、手を繋ぎ合う人々だと。



◎新米女性部長の嘆きと喜び 県退公連 女性部長 安河内 信子

お世話になっている友人に声をかけられ、退公連に入会し「福岡県女性部長」に就任いたしました。就任後、全国の部長会があると聞いて不安でいっぱいでしたが、藤崎事務局長様にいろいろ教わり、おかげさまでとても有意義な活動となりました。そんな中、今度は退公連の第4回県大会があり、戸畑区にて会議が催されました。私は受賞等される方に賞状を渡す際のお手伝いを任せられ、リハーサルもなしにできるのかと不安でしたが、こちらもなんとかクリアできてほっとしました。



八幡支部長 上山 元一

来賓に衆議院議員(1名)や参議院議員(2名)、北九州市副市長大庭千賀子様をはじめ、多数の方々にご臨席いただき、盛大に大会が開催された。八幡支部からは、渡邊事務局長と藤原組織部長が、「支部の現状と課題」を発表した。特に、「新規加入者への取り組み」は、「先輩と後輩の人脈を生かしての働きかた」が一番成果があったという報告である。その他、会員の特技を生かした天文教室、俳句教室など、前向きな会員の活動紹介は好評であった。



福岡ブロック長 城南区支部長 塩原 義充

昨年度より福岡県退職公務員連盟の県大会が4ブロックの持ち回りで開催されるようになり、北九州での2回目の大会に参加した。開会式に参加した来賓の顔ぶれに、退公連のネームバリューの大きさに触れ、身のすくむ思いになり「福岡ブロックの大会でもこれだけの来賓に来てもらえるだろうか」と不安が頭をよぎりました。考え出すときりがなく、福岡ブロックには糟屋や筑紫と頼りになる支部もある。本部に指導も受けながら福岡ブロックの力を結集し、次年度の県大会が実りある大会になるよう努力しようと考えています。



県退公連 組織部長 兼 筑紫南支部長 菅 勉

県大会が無事終了、関係者の皆様大変ご苦勞様でした。大会後の懇親会も盛り上がったそうで、結構でした。ただ、感じましたことは、大会の効果です。

昨年の筑豊大会後の1年間で、新会員獲得数0または1の支部が12支部、全24支部の半数ではほとんど効果がなかったと言えます。退公連にとって会員獲得は最優先課題です。本県会員はついに2千人を割り、「会員獲得なくして何をか言わんや」の状況です。このままでは遠からず解散となります。当支部では、今年新事務局長とともに小・中学校、市役所、コミセン、隣保館等をのべ50回以上訪問しました。結果、長年にわたる人間関係の良さで大成果をあげることができました。「何もしないのは申し訳ない」との思いからでしたが、入会してもらった時の達成感、喜びはなんとも言えないものでした。皆さん、ぜひ、県大会の効果、支部活動の実態等について、各支部におかれましても検証を行い、奮起されんことを願います。



県退公連 福祉部長 佐竹 正利

「喉元過ぎれば…云々」とは、日常的に一過性があるが故に、戒めや反省を伴いながらも事態の重大性にはなかなか気づかないまま、いずれ取り返しのつかない事態になることも多々あるように思います。今回の県北九州ブロック大会のスローガン「初心に返り…云々」は、まさにそのことを提起した大会ではなかったか?「われらの信条」に基づき、「誇り新たに」、強さを取り戻すことを強く印象付けられた大会でした。



若松支部長 渡邊 富美子

「われらは 和を貴ぶ 同胞融合 隣保相助の 民風を尊重し 身をもってその育成につとめる」
「われらの信条」この大会を通して、私たちはこの言葉を実践しなくてはなりません。私は司会進行でした。なんとか間違いのない進行を願っていました。驚いたのは、ご来賓の多さです。ご祝辞も、多数いただきました。そこで実感しました。「一人じゃない。この会場に集まった人が支えてくださってる」と。



行橋・京都副支部長 徳永 文悟

北九州市での県大会は無事終了しましたが、私たちの行橋・京都支部は当番地区の一角を担うことができず、北九州支部にすべてを任せ、大会のみ支部役員4名が出席しました。コロナ禍の3年間は支部総会も開ざしたまま役員数名の会議で進行、怠慢の誹りは免れません。このままでは会員の高齢化が進むばかり、支部だよりの発行や訪問しての勧誘に努めたいと考えています。

第4回県大会参加者数 令和5年度新規加入者数

福岡ブロック		筑豊ブロック		福岡ブロック		筑豊ブロック	
支部名	計	支部名	計	支部名	計	支部名	計
東区	1	嘉穂山田	3	東区	0	嘉穂山田	3
中央区	1	飯塚	2	中央区	0	飯塚	4
城南区	3	鞍手	3	城南区	1	鞍手	3
早良区	1	田川市	2	早良区	0	田川市	6
糟屋	3	小倉・門司	15	糟屋	3	小倉・門司	7
筑紫南	2	八幡	19	筑紫南	30	八幡	10
筑紫北	2	戸畑	17	筑紫北	1	戸畑	4
大牟田	2	若松	6	大牟田	2	若松	1
柳川みやま	1	遠賀・中間	5	柳川みやま	4	遠賀・中間	0
八女	1	行橋・京都	4	八女	0	行橋・京都	0
三瀬大川	3	合計	100	三瀬大川	8	合計	88
浮羽	0			浮羽	0		
小郡三井	4			小郡三井	1		

祝辞・来賓紹介

国会議員 祝辞	
1	9区衆議院議員 緒方 林太郎 (無所属・有志の会)
2	10区衆議院議員 城井 崇 (立憲民主党)
3	北九州市副市長
4	参議院議員 大家 敏志 (自民党)
5	参議院議員 古賀 之士 (立憲民主党)

来賓紹介	
6	参議院議員 内閣府特命担当大臣 自見はなこ (自民党)
7	6区衆議院議員 嶋山 二郎 (自民党)
8	7区衆議院議員 藤丸 敏 (自民党)
9	11区衆議院議員 武田 良太 (自民党)
10	10区比例区衆議院議員 田村貴昭 (共産党)
11	参議院議員 松山 政司 (自民党)
12	参議院議員 秋野 公造 (公明党)
13	参議院議員 下野 六太 (公明党)
14	北九州市退職小学校長会副会長 奥誠一

《報告者》



若松支部 高田 利弘

発表の際、発表の講演台が狭く、発表しづかった。発表を全部まとめて編集されていたが、発表者にとっては、自分のPCで行った方がよかった。4つの発表をまとめて編集されているせいか、time機能が動いて、勝手に画面が変わり発表しづかった。発表時間は10分程度と聞いていたので、エンターキーのみで画面が変わるようにしていたし、発表原稿も渡していたが、いざ発表になると、トラブルがあっても手助けはいっさいなかった。臨機応変に対応してほしい。



八幡支部 事務局長 渡邊 安朗

前事務局長の千々和俊一先生のお宅に伺い、組織部長の藤原康憲先生と私の3人で、①八幡支部の新会員獲得の理由、②支部会員の生き方や活動の紹介の2点に発表内容を決めた。詫摩スミ子先生は、8月29日に99歳で天寿を全うされた。亡くなるその日まで、お元気で、凜とされていた先生は、八幡支部のテーマ「やる気がはたらきかけるたのしさへ」を体現されている方だった。正に八幡のシンボルのような方だった。お亡くなりになった会員の方々の志を八幡支部の活動に、今後とも受け継いでいきたいと思う。



遠賀・中間支部 高山 彰二

まず退公連会員として、一体感を感じることは何かと考えました。それは、総会後の先輩のクイズによる会員同士のやり取りだと思い当たり、それをテーマと決めました。しかし、自分が知るクイズだけでなく、今まで多くの先輩方が、交流会で楽しさや意義ある発表をしてきたと伺いました。そこで、発表者ご本人に直接、または発表内容を知る先輩からの聞き取りで間接的に取材しました。その時改めて、この交流会が我が支部の結束に貢献していると感じました。



小倉・門司支部 中野 敬

県本部より広報活動について報告をとの依頼を受け、私達は支部活動の中核として続けてきた「支部だより」について報告することとしました。先達が支部の動きや会員の情報を発信してきた思いは十分お伝えできませんでしたが、発行し続ける私達の思いは報告できました。他支部からは今後の支部だよりに生かせるヒントもいただきました。この貴重な学びの機会を生かし、会員に喜んで頂ける「支部だより」作りに努めてまいります。

ようこそ退公連へ ～新規加入者88名を代表して～



若松支部 片岸 里枝

「退職後は、真の友人たちと真の豊かな時間を過ごそうと。だって時間は有限だから。」この思いの延長線で本会に加入させていただくことになりました。きっかけは、退職後に接点のあった先輩方がとても魅力的だったことです。あたたかくしなやかに、そして鷹揚に構える姿は、入会理由としては十分でした。初めて届いた支部だよりの近況欄や名簿を眺めながら、縁のあった先輩方を懐かしんでいます。私も先輩方いつか近づけますように。

《大会実行委員》



◎「北九州らしさ」 県大会開催の協力を感謝!

実行委員長 高木 眞

「初心に返り、退公連の強さを取り戻そう！」《SDGsのまち 北九州からの発信》のテーマのもと、北九州地区(6支部)の総力を挙げての第4回県大会は、いかがでしたか? 遠来の会員に「北九州らしさ」を満喫してもらいたかったのですが、なかなか諸般の事情で十分ではなかったと反省しております。しかし、担当の北九州地区会員は、精一杯のおもてなしをしたつもりです。おかげさまで多くの来賓と会員の参加のもとにテーマに沿った実践発表、「年金」講話、「会員数の状況」報告等、質の高い内容のある大会になったのではないのでしょうか。



県退公連 経理部長 垂水 隆

北九州のウェルとはたは交通が便利で、素晴らしい会場での開催となりました。北九州ブロックの皆さんの努力と熱意のお陰かと思えます。テーマは「初心に返り、退公連の強さを取り戻そう」で、内容としては、広報活動の工夫や持続可能な福利厚生などの実践発表がありました。その中に支部の悩みや課題として、支部の会員の高齢化問題と新会員数の加入問題などがあるようです。県大会の実施を通して、県本部として、各支部を支えながら、連帯感を保っていくために何ができるかを検討し、次の大会に生かしていく必要があると感じました。また、退公連の魅力を生みだし、会員を増やすための内容の検討が必要だと考えています。最後に、大会を担当された北九州ブロックの皆様へ感謝申し上げます。



小倉・門司支部長 善岡 美智子

大勢のご来賓の方々をお迎えしての開会行事の司会を行い、大変緊張しました。4支部の発表は、それぞれが具体的な内容で現状を把握できました。私ども小倉・門司支部は、中野広報部長が「支部だより」の30年以上の歴史と今後の課題点を披露しました。本部の計らいで支部だより(95号)を資料の中に折り込み、会員の皆様にご覧いただくことができました。4年後は、どんな発表を用意できるか今から思索しなければと思っています。



◎役員の内深まる

戸畑支部 事務局長 玉浦 孝一

私は、第4回福岡県大会北九州ブロック地元実行委員会に地元事務局長として加わり、会議のため資料提供や大会当日の業務内容と業務スタッフの確保等に努めました。大会当日は準備から後片付けまで各々積極的に行動し、また会員や来賓の皆様を笑顔で迎えていました。今大会を通じて戸畑支部の役員はより絆が深くなったように感じ、私は戸畑支部事務局長として、県事務局長との連絡を密にすること、業務スタッフとの連絡・調整の大切さを再度学びました。今大会携わったスタッフの皆様には、心からお疲れ様とお礼を申し上げます。

国会議事堂前にて



令和5年度 日本退職公務員連盟全国大会 参加報告

10月24日(火)、令和5年度日本退職公務員連盟全国大会が、文京シビックホール(東京都文京区)にて開催されました。福岡県退公連からは、稲田会長を含む計4名が参加しました。

式典の様子



10月24日、東京都文京区の文京シビックホールで開催されました退公連全国大会に、稲田(県会長)、垂水(県経理部長)、柿添(三潨大川支部長)、西村(糟屋支部長)の4名が参加しました。

当日の午前は、福岡県選出の13名の国会議員の事務所を訪れ、公的年金制度の維持・充実を中心に社会保障制度改革に関する5項目を要望する活動を行いました。

午後からの大会では、加藤勝信(前厚生労働大臣)氏をはじめたくさんの衆参両院の国会議員の参加があり、盛大な大会になりました。また、本会の鴨下一郎会長のユーモラスな講演には、これからの生き方の示唆を頂けるいい機会になりました。

福岡への帰路は、疲れよりも充実した時が過ぎて元気に帰れました。

午後からは、文京シビックホールでの全国大会に参加しました。基調提言や大会決議の後、記念講演として日本退職公務員連盟の会長である鴨下一郎さんより、医師の立場からお話がありました。「ひとつ捨てる」と、人生がひとつ楽になる一との演題で、どのようにすれば健康寿命が維持できるかという課題についての講演でした。

また、会員数を増やした県連盟に対しての表彰もあり、会員数を増やすため各県が苦労していることを改めて思い知らされました。



経理部長
垂水 隆



糟屋支部長
西村 栄治



10月24日、東京都文京区の文京シビックホールで開催されました退公連全国大会に、稲田(県会長)、垂水(県経理部長)、柿添(三潨大川支部長)、西村(糟屋支部長)の4名が参加しました。

当日の午前は、福岡県選出の13名の国会議員の事務所を訪れ、公的年金制度の維持・充実を中心に社会保障制度改革に関する5項目を要望する活動を行いました。

午後からの大会では、加藤勝信(前厚生労働大臣)氏をはじめたくさんの衆参両院の国会議員の参加があり、盛大な大会になりました。また、本会の鴨下一郎会長のユーモラスな講演には、これからの生き方の示唆を頂けるいい機会になりました。

福岡への帰路は、疲れよりも充実した時が過ぎて元気に帰れました。



三潨大川支部長
柿添 展宏



福岡県代表の一人として、まずは全国大会の前に県出身の衆参議員にお会いし、年金に関わる要望書を提出しました。国会開催中でしたので、全員に直接お会いすることはできませんでしたが、お会いできた皆さんは、私たちの話をよく聞いてくださり、私たちの要望にご理解いただいたと感じました。

その後、全国大会に参加しました。さすがに全国大会だけあって、来賓あいさつは前厚生労働大臣の加藤勝信先生でした。他にも著名な議員が多数参加されており、「退公連は、議員の方々にも十分に認めてもらっている」と強く感じました。

大会決議では、年金制度の持続性、働き方に対応する年金制度の確立等を確認し、最後に組織の拡充と活性化に尽力することを確認しました。今後福岡県退公連においても、組織の拡充と活性化を中心として、年金制度のさらなる確立のための活動が必要であることを再認識した全国大会への参加でした。

